

第八回小学生親善訪問事業（米沢市）を振り返る

東海ライオンズクラブ

会長 井上孟通

先ずもって心配をしたのが、新型インフルエンザ等による欠席者の続出、事業の中止でした。しかし案ずることはありませんでした。

出発式の朝、全員元気な笑顔で参加し最後まで頑張って、再び全員が元気で帰着出来ました。団員の皆さんの努力は言うまでも有りませんが、団長の片山先生を始め、引率の先生方による綿密な計画と、心配りの賜と深く感謝いたしております。

二つ目は、温暖化による雪不足の心配でした。やはり降雪量は平年の半分も無いというお話でしたが、子供たちが雪体験をするには十分の積雪は有り、三日間とも米沢の皆さんがびっくりするほどの良い天気でした。

初日は、伝国の杜にて心温まる歓迎式の後、二基の雪灯籠を製作、



歓迎式（伝国の杜）

二日目は、西部雪ん子少年団と小学校の校庭（積雪約七十センチ）で、クロスカントリーを体験、アイスキャンデー作り・お餅つき、地元の皆さんの温かいおもてなしの心に、引率の私たちも大変感動致しました。

三日目は、雪深い羽黒神社と普門院を見学し勉強する事ができました。そのほか、わくわく館での体験や上杉博物館での勉強等、予定通り出来、大変良かったと思います。欲を言えば、雪との戦いも体験してもらえたらと、勝手な事を思う次第です。

東海ライオンズクラブから、私を始め三名同行させていただきました。元気で積極的な団員達を後ろから見ている、気候も風土も異なる米沢市と東海市の親善交流が、今後とも末永く継続する事に寄与できればと思いました。

最後に、子供たちと共に良い体験をさせていただきました、ありがとうございました。



雪灯籠の製作



クロスカントリー体験